

『風船』（6月3日配信）

こんにちは。戸田です。
今日のお話は、風船です。

11月頃、家族でディズニーランドに行きました。1日中遊んで帰ろうとしたとき、ディズニーランドの中にひもで結ばれてぶかぶか浮かんでいる風船を売っているキャストさんがいました。娘がその風船が欲しいというので、ミッキーの形をしたその風船を買い、家に持って帰りました。風船はしぼむことなく、2週間くらいはそのまま浮いています。

私はろう学校の幼稚部で働いているのですが、幼稚部にも家族でディズニーに行った子たちが何人かいます。子どもたちは、ディズニーへ遊びに行った後に登校すると、ディズニーで遊んできたことを同じように学校でやるんです。この「ディズニーごっこ」がすごく盛り上がります。例えば、ミッキーの耳をかたどったカチューシャを作って頭につけてみたり、ディズニーキャラクターのお姫さまのドレスを作って着て写真を撮ってみたり、スプラッシュマウンテンみたいなコースターを幼稚部の庭で作って遊んでみたり、ディズニーごっこをいろいろ作り出して楽しんでいるんです。

そんなディズニーごっこが子どもたちの中で盛り上がっていたときに、ディズニーで買って来た風船がちょうど家にあってまだ形を保ったまま浮いていたので、これを学校に持って行って木に結んで浮かせておけば、ディズニーランドっぽくなっていいんじゃないかと考え、家から持って行きました。庭の木に風船のひもを結びつけておくと、ディズニーごっこをしている子たちも風船を喜んでいました。

そのあと、子どもたちが庭で遊んでいたときに突然子どもに呼び止められ、どうしたのかと思ったら風船がありません。どこに行ったのかと見てみると、風船が空に飛んで行ってしまっていました。なぜそんなことになってしまったのかと思ったら、子どもたちがディズニーごっこをしていた時に風船を見て、ディズニーランドにいる風船屋さんごっこをやろうと思いついて、遊び始めたようです。他の子が風船を買いに来たときに、キャスト役の子が木にくくりつけていたひもを何も考えずに木の方を持ったままハサミで切ってしまう、風船がそのまま飛んで行ってしまったんです。その子はもうあっけにとられて飛んでいく風船を見ているだけ。私がキャスト役の女の子に「ひも切っちゃったの？」と聞いても、その子はただ呆然と風船を見ながらうなずくだけでした。その子は風船のひもを離すと飛んでいってしまうという体験が今までなかったようで、私もそのことは全く叱りませんでした。子どもたちはみんな、風に乗って遠くへ飛んでいく風船をただ見ているだけでした。子どもたちにとってはいい経験だったと思います。

ひもを切ってしまった女の子は残念がっていたので私はいいよと慰めました。ある男の子が、飛んで行っちゃっても大丈夫だと、空には節分に来る鬼がいるから、その鬼が風船をつかまえて節分の時に持ってきてくれるから大丈夫だって言うんです。そう話しかけている姿を見て、私は青ざめました。節分の鬼役は私です。またディズニーランドに行って風船を買ってこなくちゃいけないのかと慌てました。どうしようかと思いましたが買いに行くのは諦めます。節分の時には、風船には追いつかなくてつかまえられなかったよと謝って済ませました。